

【低学年推奨】SNS教育プログラム レッスン1（ユニット1）学習指導案

- 1 単元名 適切なコミュニケーションを考える
- 2 ユニット名 「どんなふうにかんじる？」
- 3 本時のねらい 同じ言葉でも、人によって感じ方に違いがあることに気付く。
- 4 本時の展開

構成	学習活動	指導上の留意点
導入	発問1：友だちに伝えたと、友だちがうれしいと思う言葉は何ですか。 例) ・ありがとう。 ・すごいね。 ・頑張っているね。など	・自分から友だちに向けた視点で発問をする。 ・肯定的な言葉を板書し、うれしいと思う言葉を共有する。
展開	○友だちから言われて「うれしいと感じる言葉」と「うれしくないと感じる言葉」について感じ方を考える。 発問2：友だちに言われてうれしいと感じる言葉とうれしくないと感じる言葉はどれですか。 ○5つの言葉を友だちから言われて「うれしいと感じる言葉」と「うれしくないと感じる言葉」に分類する。 ○分類された言葉の中で、「うれしいと感じる言葉」「うれしくないと感じる言葉」を1枚選び、その理由をワークシートに記入する。 例) ・③うれしいと感じる：「おもしろいね」は、友だちが喜んでいると思うから。 ・③うれしくないと感じる：「おもしろいね」は、ばかにされている気がするから。 ○グループで①～⑤のカードを選んだ理由を話し合う。 ○自分が分類したカードと他の人が分類したカードの違いについて考える。 例) ・分け方が同じでも、理由が違う。	・めあて「友だちから言われて『うれしいと感じる言葉』『うれしくないと感じる言葉』について考えよう」 ・友だちから自分に向けた視点で発問をする。 ・5枚のカードを黒板に提示し、児童用の①～⑤のカードを配付する。 ①「かわいいね」 ②「頭がいいね」 ③「おもしろいね」 ④「じょうずだね」 ⑤「いっしょうけんめいだね」 ・作業が進まない児童には、友だちを一人イメージするよう声かけする。 ・自分が「うれしい」と感じる言葉が、相手にとっては「うれしくない」と感じる言葉になる場合があることに気付かせる。 ・同じ言葉でも人によって感じ方が違うことを理由とともに認識させる。
まとめ	○本時のまとめと振り返りを行う。 同じ言葉でも、うれしいと感じる人とうれしくないと感じる人がいる。人によって感じ方が違う。 例) ・言葉のとらえ方に違いがたくさんある。 ・相手がどう感じるかを考えて発言する。	・これから友だちに声をかけるときに気を付けることを含めて学習を振り返る。

5 指導の手引き

構成	学習の流れ	教師の発問・指示
導入	学校生活の中で、自分から友だちに向けて言う視点で、友だちが言われてうれしいと感じる言葉について確認する。	あなたが友だちに伝えと、友だちがうれしいと思う言葉を思い浮かべてください。どんな言葉が思い浮かびましたか。
	肯定的な言葉を板書し、うれしいと思う言葉を共有する。	このような言葉を伝えと、うれしいと感じる人が多く見られますね。
展開	めあて：自分自身が「友だちに言われてうれしいと感じる言葉、うれしくないと感じる言葉について考えよう」を確認する。	今日は、友だちから言われてうれしいと感じる言葉、うれしくないと感じる言葉について考えていきましょう。
	黒板に①～⑤の言葉の掲示物を貼り、場面設定（友だちから言われた言葉）を確認する。	友だちから①～⑤の言葉を言われました。言われてうれしいと感じる言葉、うれしくないと感じる言葉はどれですか。
	ワークシートと①～⑤の言葉カードを配付し、個人でうれしいと感じる言葉、うれしくないと感じる言葉に分けさせる。（ワークシートには、言葉カードの数字を記述させる）	ワークシートに、①～⑤の言葉カードをうれしいと感じる言葉、うれしくないと感じる言葉に分けましょう。分けた人からワークシートに言葉カードの数字を書きましょう。
	その中で、うれしいと感じる言葉、うれしくないと感じる言葉をそれぞれ1つ選び、その理由を記述させる。	うれしいと感じる言葉、うれしくないと感じる言葉に分けた中からそれぞれ1つ選び、その理由をワークシートに書きましょう。
	グループで①～⑤の言葉カードを選んだ理由を話し合う。	グループになり、①～⑤の言葉カードを選んだ理由を発表しましょう。
	うれしいと感じる言葉、うれしくないと感じる言葉の分け方を何人かの児童に発表させ、同じ言葉でも人によって感じ方や考え方が異なることが分かるように板書する。 ※各自の発表を一般化させない。	同じ言葉でも、人によってうれしいと感じる人、うれしくないと感じる人が見られます。友だちの考えを聞いてどんなことを考えましたか。
	☆補助的な発問や活動（時間配分等に応じて） ①～⑤の言葉カードをうれしいと感じる順に並べ、なぜその順にしたかグループ内で話し合う活動をしてもよい。	①～⑤の言葉カードをうれしいと感じる順に左から並べましょう。なぜその順に並べたのかグループで話し合いましょう。
	自分が分類した言葉カードと、他者が分類した言葉カードを見比べ、感じ方や考え方の違いを話し合う。	自分が分けた言葉カードと、友だちが分けた言葉カードを見比べて、何が違いましたか。
	本時の学習を、これまで出てきた児童の言葉からまとめる。	例）「同じ言葉でも、人によってうれしいと感じる人とうれしくないと感じる人がいる。人によって感じ方が違う。」
まとめ	「これから友だちに声をかけるときに、気を付けたいこと」を振り返りで書かせる。	今日の学習から、あなたは友だちに声をかけるとき、どんなことに気を付けたいですか。振り返りの欄に書きましょう。

6 実践するにあたって

(1) 概要

- ・ レッスン1の3ユニットの1回目であり、自分と他者との考え方や感じ方には違いがあることに気付かせ、相手の立場に立って考えることを主眼としている。
- ・ 題材だけでなく、グループでの活動や全体での共有そのものが、適切なコミュニケーションの在り方と結び付くよう意識付けるものである。

(2) 指導の方向

- ・ 学校生活の中では、気軽な気持ちで発した言葉が人を傷つけたり、言葉足らずで相手に誤解を与えたりして児童同士がトラブルになることがある。同じ言葉でも、相手にとっては「うれしいと感じる言葉」「うれしくないと感じる言葉」と感じ方には違いがある。そこに気付かせることで、友だちとの関わりについて振り返る機会とし、日常生活においても伝え方に気を付けようとする態度を養いたい。

(3) 工夫すると良い点

- ・ 5枚のカードを使って「うれしいと感じる言葉」「うれしくないと感じる言葉」に分類させ、その中から1枚ずつ選び理由を書かせる「個人」で考える時間と、「グループワークや全体」で共有する時間の二部構成になっている。グループワークでは、同じ言葉でも人によって感じ方に違いが生じることや、そう感じる理由を伝えあう中で、相手に誤解をさせてしまうことがどのような場面にあるのかということ、児童の対話を中心に展開させるとよい。
- ・ 学級の実態に応じて、5枚のカードを「うれしいと感じる言葉」順に並べ、なぜその順にしたのかをグループ内で話し合う活動もできる。自分と同じ並びであっても、理由は異なることが予想される。人によって、考え方や感じ方が異なることを知り、適切なコミュニケーションの在り方を考える機会としたい。
- ・ 5枚のカードについて、学級の実態に応じて「まじめだね」、「あかるいね」、「元気だね」、「がんばっているね」等と入れ替えてもよい。

7 参考資料

- ・ 東京都教育委員会（2022）「令和4年度版 SNS 東京ノート」SNS東京ノート①
<https://infoedu.metro.tokyo.lg.jp/snsnote.html>
- ・ 一般財団法人 LINE みらい財団(2018(改訂:2021))「SNS ノート（情報モラル編）」
<https://linecorp.com/ja/csr/newslist/ja/2018/190>

レッスン1-1

どんなふうにかんじる？

ねん くみ ばん
なまえ

あなたが、友だちに言われてうれしいとかんじる言葉、うれしくないとかんじる言葉に
わけましょう。

①かわいいね

③おもしろいね

⑤いっしょう
けんめいだね

② あたま 頭 がいいね

④じょうずだね

うれしいとかんじる言葉

うれしくないとかんじる言葉

【りゆう】

【りゆう】

◆まとめ

◆ふりかえり